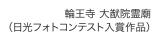
ニッポンの世界遺産



東昭宮 陽明門 (日光フォトコンテスト入賞作品)



ミシュランの観光地ガイドでも三ツ星の評価を得ている 日光。都心から2時間程度で行けるとあって、東京観光と セットで訪れる人も多いのでしょうか。駅に降り立つと多 くの外国人観光客を目にします。

明治時代に神仏分離令が出されるまでは、神仏を分け隔 てなく崇めてきた日光山。奈良時代の末、勝道上人によっ て開かれました。関東の一大霊山として多くの信仰を集め てきた山々は、深い杉木立に覆われ、夏でも20度以下と いうひんやりした空気に包まれています。東照宮に代表さ れる徳川の贅を尽くした豪華絢爛な建造物に圧倒される一 方で、苔むした石灯篭や石畳を眺めてホッと一息…。緊張 と緩和、人工と自然、喧騒と静寂。金色に輝く建造物と、 それを取り囲む自然の色合いもまた、対照的でありながら 見事に溶け合っています。

世界遺産に登録された「日光の社寺」には、日光山内に ある東照宮と二荒山神社、それに輪王寺の 103 棟の建造物 群に加え、これらの建造物を取り巻く「文化的景観」も含 まれています。文化的景観とは、自然と人間の活動が互い に影響し合ってつくり出された景観のことです。例えば、二 荒山神社の別宮滝尾神社本殿では、背面に扉が付けられ、 そこから女峰山を拝めるようになっています。東照宮と大猷 院霊廟では、山の地形を生かして境内を広くも狭くも見せ、 空間の役割に合わせてゆとりと緊張が演出されています。

世界遺産の登録にあたっては、当時の日光市教育委員会 に「世界遺産登録推進班」が設置されました。準備を進め るなかで特に大変だったのが、史跡等の広域にわたる「面 的な保護」だったとか。建造物については国宝や重要文化 財として法的な保護がされていたものの、山林や境内など は保護されていなかったのです。保護地域に指定されると さまざまな規制を受けます。地権者などの理解や協力を得 るのも一筋縄ではなかったでしょう。

簡素な美しさにあらがうかのように、おびただしい装飾 で彩られた東照宮。桂離宮を評価したドイツの建築家、ブ ルーノ・タウトにはどうも受けがよくなかったようですが、 眠り猫や三猿に限らず、あらゆるところに張り巡らされた彫 刻は、やはり見ごたえがあります。陽明門の逆柱をはじめ とする魔よけの仕掛けを発見する楽しみもあります。広大 な敷地内を散策すればメタボリック対策にもなりそうです。

技術の粋を集めた建造物+スピリチュアルな空間+四季 折々の自然。日光には国籍を問わず多くの人を引きつける、 不思議な魅力が詰まっています。



参考: 「世界遺産 日光の社寺」 日光市生涯学習課 http://www.city.nikko.lg.jp/kankou/shaji/japanese/main.htm